

演劇部門

芸術祭大賞 (関東参加公演の部)

劇団新派

「十月新派特別公演」における「太夫さん」の成果

133年の歴史を誇る新派の底力を見る思いであった。京都鳥原の遊郭を舞台に、台所と帳場を本物さながらに再現。そこで働く人や出入りする人に至るまでリアルに息づき、戦後間もない時代の波に翻弄されながらも変わらぬ人情の機微を丁寧に描いた。女将の波乃久里子ら新派勢に藤山直美ら客演のアンサンブルもよく、これぞ新派という舞台を作り上げた。

〈受賞者コメント：松竹株式会社 演劇本部長 山根 成之〉

花柳章太郎追悼「新派特別公演」は、コロナ禍において通常の公演形態からの変更を余儀なくされての実施となりましたが、携わって下さった新派劇団員、スタッフ、ゲストの皆様、そして応援して下さいましたお客様の御蔭をもちまして、このような素晴らしい賞を受賞する事が出来たと心より感謝申し上げます。同時に「太夫さん」のおえときみ子として幾度も共演した波乃久里子さんと藤山直美さんが築き上げた成果が、劇団員の結束力と相俟って花開いた感じがございます。134年の歴史ある新派として、未来へ絆を頂戴してこれからも引き続き精進してまいります。



芸術祭大賞 (関西参加公演の部)

兵庫県立ピッコロ劇団

第71回公演「いらないものだけ手に入る」の成果

スペースコロニーというSF的世界に「ロミオとジュリエット」の物語をはめ込み、恋愛の行方に、戦争や差別への問いを重ねる。土田英生の怪妙かつ批評的な劇作と、個々の役者を生かす的確な演出が光った。また主役の橋義・櫻村千晶をはじめ、孫高宏・菅原ゆうきら劇団員が息の合ったアンサンブルを見せてくれた。

〈受賞者コメント：兵庫県立尼崎青少年創造劇場 館長 大島 裕士〉

栄えある文化庁芸術祭大賞を頂戴し誠にありがとうございました。兵庫県立ピッコロ劇団は全国初の県立劇団として設立され、まもなく28年になります。このたび実に19年ぶりに土田英生さんを作・演出にお迎えしての創作は、私たちにとって非常に刺激的でかけがえのない時間でした。上演のためご尽力いただいた皆様、ご観劇くださった皆様、そしていつも劇団を支えてくださる皆様に、心から感謝申し上げますとともに、今後とも創作舞台を通して地域社会に貢献できるよう、一層精進してまいります。



撮影：堀川高志 (kutowans studio)



撮影：堀川高志 (kutowans studio)

芸術祭優秀賞 (関東参加公演の部)

内野 聖陽

こまつ座 第138回公演「化粧二題」における演技

大衆演劇の俳優、市川辰三をひとり芝居で演じた。あたり役の忠太郎と孤児院育ちの辰三の人生が重なり合う構成で、内野は忠太郎役での母に打絶されての絶望、辰三に代って孤児院の恩師ジュール先生の前で見せる少年のごとき素の表情、実母の来訪を知っての動揺、さらにはジュール先生の人物などを生き生きと描き出した。

〈受賞者コメント〉

心地よく井上ひさし先生の世界に誘うとはどうしたことなんだろう。常に自問しながらの稽古でした。透明な劇団員たちを生き生きと息づかせるために演出の鶴山仁さんこそが、僕の演者としての闘志を常によき表現に導いてくださったと確信しています。演じる機会を与えてくださった井上麻矢さん、スタッフの皆様や私を支えてくれた方々。劇場で同じ空間を共にしてくださったお客様。すべてがあって僕の演技は存在しました。本当にありがとうございました！



撮影：田中理紀

演劇部門

芸術祭優秀賞 (関西参加公演の部)

エイチエムピー・シアターカンパニー

エイチエムピー・シアターカンパニー「マクベス 釜と剣」の成果

拝金主義の権力者は自然を破壊し、金を生む戦争を求める。横暴な男性社会で女性が声をあげるには、「男性」になるしかないのか。環境、ジェンダー、絆の切断。現在が抱える問題を穿つこの舞台は、古典の改作ではない、新しい概念で発想した「新作」だ。舞台表現は刺激的でわくわくさせ、優れた芸術センスと実験精神を感じる。

〈受賞者コメント：代表 森田 祐利栄〉

この2年間、仲間と話し合いを繰り返し工夫をし演劇作品を作り続けて来ました。今回このような賞を作品として頂くことができ、関わって頂いた方々ご来場頂いたお客様全てに感謝をお伝えしたいと思います。私達は不要不急に悩まされてきました。勿論、文化芸術に関わる者だけでなく、世界中の多くが立ち止まり考えさせられた日々でした。まだまだ状況は変わりませんが、困難な時にあってこそ、フィクションの持つ想像力の強さで、ノンフィクションを超えて行けるような作品作りに取り組みで参りたいと思います。



Photo by T.Matsuyama



Photo by T.Matsuyama

芸術祭新人賞 (関東参加公演の部)

平体 まひろ

ala Collectionシリーズvol.12「紙屋悦子の青春」における演技

いたいけで控え目なたまずまい。恋慕、失意、絶望、覚悟、忍従、希望、諦観——とめぐるしく押し寄せる烈しい感情を内に封じ込め、淡々とした日常会話に徹する主人公・紙屋悦子を好演した。みずみずしさとともに、若さに似合わぬ安定感を備え、いつのまにか観る者に確かな印象を残している。将来に期待を抱かせる逸材である。

〈受賞者コメント〉

この「紙屋悦子の青春」は、岐阜県可見市で滞在製作する「アーティスト・イン・レジデンス」という形で創られました。素晴らしい創作現場で、素晴らしい先輩方と創ったこの作品で、歴史ある賞の新人賞をいただけること、大変ありがたく光栄に思っています。座組の皆様、可見市の皆様、観てくださったお客様、全ての方々のおかげです。改めて、心から感謝申し上げます。まだまだこれからです。これからも日々人生を善生き、自由に大胆に芝居の道を進んでまいります。ありがとうございました。



撮影：中尾栄治

芸術祭新人賞 (関西参加公演の部)

礼 真琴

宝塚歌劇 星組公演「柳生忍法帖」 「モアー・ダンディズム!」における演技

「柳生忍法帖」の柳生十兵衛役では、強さの中に温かみのある人物像を的確に造り上げた。「モアー・ダンディズム!」では、レビューの根本である明るさと華やかさが横溢。2作品を通じて明瞭で幅広い発声による歌と芝居、指先まで神経の行き届いたダンスと、全てに安定感があるとともに、今後一層の可能性を感じさせた。

〈受賞者コメント〉

この度、文化庁芸術祭演劇部門新人賞をいただくこととなり、大変光栄に感じるとともに、身の引き締まる思いでございます。このような栄誉ある賞を受賞できたのも、日々切磋琢磨しながら作品づくりに励んでいる仲間たちやスタッフの皆様、そして何より宝塚歌劇を愛し、支えてくださっているお客様のおかげと、心より感謝いたしております。コロナ禍においては、公演を無観客でライブ配信する経験もいたしましたが、舞台はお客様と作り上げるものであることを改めて痛感いたしました。この賞を励みに、今後も、皆様が少しでも元気になれるような舞台を作り上げていけるよう、一層の努力をいたす覚悟でございます。



© 宝塚歌劇団



© 宝塚歌劇団

音楽部門

芸術祭大賞 (関東参加公演の部)

仲道 郁代

「仲道郁代ピアノ・リサイタル 幻想曲の模様」の成果

「仲道郁代ピアノ・リサイタル 幻想曲の模様」では、ブラームス、シューマン、ショパン、スクリャーピンの作品が並べられ、仲道が、それぞれの作曲家の幻想へ深く思いを馳せた、ロマンティックで濃密な演奏を繰り広げた。最後のスクリャーピンではスケールの大きさやヴィルトゥオジテイも披露。大賞に値するかわめて充実したリサイタルであった。

〈受賞者コメント〉

文化庁芸術祭大賞という、長い歴史と深い重みのある賞をいただきましたことに、感謝いたします。「The Road to 2027 リサイタル・シリーズ」という道程の中のリサイタルでした。作曲家が作品に込めた心の中の様相。その複雑な心の襞をピアノの音でもって立ち昇らせた時に、伝えられる大切なメッセージがある。人が生きることに感じて、考える様々を、音楽を通して、ホールに集うお客様と共有していくことが、音楽家としての私の務めであると、大きな励ましをいただきました。



撮影：ヒダキトモコ



撮影：池上直哉

芸術祭大賞 (関西参加公演の部)

太田真紀&山田岳

「オペラ『ロミオがジュリエットRomeo will juliet』」の成果

足立智美への委嘱作品であるオペラ『ロミオがジュリエット』は、シェークスピアの『ロミオとジュリエット』を原作として AI が作成した台本をもとに作曲された。あごうさとしによる考え抜かれた演出、ソプラノの太田真紀とギターの手田岳による圧倒的なパフォーマンスは、この作品がもつ世界を見事に描き出した。

〈受賞者コメント：太田真紀&山田岳〉

この度は栄えある第76回文化庁芸術祭音楽部門におきまして大賞を賜りましたこと、深く御礼申し上げます。新しい試み、というものは当然ながら私たち自身にとっても予測のつかない暗黒模索のスタートだったわけですが、作曲の足立智美さんをはじめ、演出のあごうさとしさん、制作の福永綾子さん、舞台、照明、音響、映像、衣装スタッフの皆さま全てのお力添えによって徐々に光が当たるように現実のものとなり、これまでにない素晴らしい公演が実現できたこと、そしてその成果に極めて光榮な受賞を賜ったことは感謝に堪えません。今回の受賞を励みに、より一層精進して参りたいと思います。



撮影：渡邊一生



撮影：金サジ

芸術祭優秀賞 (関東参加公演の部)

米川 文清

「第14回 米川文清 箏・三絃 演奏会」の成果

地歌箏曲の古典世界に生きる米川文清が、性格の異なる名曲を取り上げ、自らの芸の伝承と立ち位置を明確にした。丁寧な節遣いと三絃の響きが研えた《袖香炉》に、初代の箏の手付の個性を発揮した《残月》は柔らかみのある味わい。二代文子の妥協のない箏に、三絃で正面から渡り合った《根曳の松》は圧倒的な充実度で、古典の真髄を示し、聴衆を魅了した。

〈受賞者コメント〉

この度は、栄誉ある賞を賜り心より感謝申し上げます。コロナ禍の中、文化芸術の灯を絶やさぬ為にご尽力されている方々の姿に感銘をうけ、開催を決意いたしました。ご来場くださいましたお客様、ご出演下さいました先生方、開催を支えて下さいました全ての皆様へ感謝申し上げます。名誉ある賞に恥じぬ様、なお一層精進して参りたく存じます。



音楽部門

芸術祭優秀賞 (関西参加公演の部)

公益社団法人アンサンブル神戸

「第68回定期演奏会」の成果

リヒャルト・シュトラウスの管弦楽曲を特集した第68回定期演奏会では、ホルンの木山明子など、関西地域の若い才能を発掘し、特に《メタモルフォーゼン・23の独奏楽器のための習作》では、アンサンブルの繊細な協調と個の綿密な協働による卓越した表現力で、古典的なレパートリーから価値ある芸術音楽を高いレベルで継承していく大きな意義を感じさせた。

〈受賞者コメント：代表理事 矢野 正浩〉

この度初めて文化庁芸術祭に応募させていただきました。審査員の方々に聴いていただいている状況で、普段の演奏会とは少し緊張感の度合いが増した状態での演奏でしたが、楽員一同その緊張感を音楽の雰囲気や溶け込ませて演奏の質を高めることができたと思います。当団は来年創立25周年を迎えますが、今回の受賞は今後の演奏活動を飛躍させるための励みとなります。これからもこのような貴重な機会をできるだけ活用させていただき、更なる演奏レベル向上を目指したいと思っています。



芸術祭新人賞 (関東参加公演の部)

山本 亜美

「第7回山本亜美二十五絃箏リサイタル 佇むさきに」の成果

二十五絃箏が誕生して、30周年を迎えている。この楽器の創始者野坂操壽の編曲委嘱作品2作(高橋悠治、伊福部昭)と委嘱門下の委嘱作品2作(森亜紀、高橋久美子)からなるプログラムは、今まで様々な可能性を探ってきた奏者の一つの到達点であり、その演奏は、この楽器の持つ魅力を高い完成度で示したものとなった。

〈受賞者コメント〉

この度の受賞は、私の中に在る二十五絃箏奏者としての揺るぎなきところを確認し、身体を中心軸がどとのたつように感じております。公演に辿り着くために関わってくださったすべての方々に、そして恩師である鈴谷章子、野坂操壽、戸島美喜夫諸師に深く感謝を申し上げます。ここからはじまる二十五絃箏と共にゆき、深く長い旅を楽しみながら、ゆっくりと丁寧に楽器と向き合い、更なる道を歩んでいきたいと億います。



撮影：ヒダキトモコ



撮影：渡部晋也

芸術祭新人賞 (関西参加公演の部)

熊谷 綾乃

歌劇「つばめ」における歌唱

今回のびわ湖ホール「オペラへの招待」はブッチーニ晩年の作品「つばめ」。コメディタッチで軽佻浮薄な1920年代パリ社交界を描くもので、オペラ作品としては説得力に欠ける部分もあるが、そのような中であって、洗練とした演技と確かな歌唱力でドラマをコミカルに進行させていた熊谷（びわ湖ホール声楽アンサンブル所属）の歌唱は高く評価される。

〈受賞者コメント〉

文化庁芸術祭新人賞という名誉ある賞を頂戴し、心より光榮に存じます。この度の受賞は、私一人の力で成し得たものではありません。びわ湖ホール、そこで共に働く方々のお力、そしてホールを大切に思ってくださいお客様のお心。それらが重なり、今回の受賞に繋がったのだと思っています。私がオペラに出演する際に大切にしていることがあります。それは、自分の演じる役が「なんとしても伝えたい事」は何かを見つけることです。この受賞に恥じぬよう、物事の本質を見定め、本当に大切なことを伝えられる歌手であるよう日々精進したいと思います。



舞踊部門

芸術祭大賞 (関東参加公演の部)

磨 赤児
「ゴールドシャワー」の成果

国際協働によって、気鋭のフランス人振付家／ダンサー、フランソワ・シェニョーとデュオ作品を制作、上演。西洋文明の母たるギリシャ神話の枠組を借りて、日本の舞踏とフランスのダンスの歴史に磨かれた二つの異なる身体を対話させ、大胆な衣装と美術、挑発とユーモアと共に極めて独創的かつ完成度の高い舞台を実現した。

〈受賞者コメント〉

この度の文化庁芸術祭大賞を戴きましたことを大変光栄に思っております。美貌のフランス人ダンサー、フランソワ・シェニョーのフェロモンに誘われて張り切って踊りました。何より、スタッフ及び関係者の皆さまの力の結集の賜物であると思っております。このことを大きな励みにし、今後とも老骨に鞭打ち精進致す所存であります。関係各位の皆さまに改めて感謝申し上げます。



撮影：川島浩之



芸術祭優秀賞 (関東参加公演の部)

藤間 清継
「藤間清継舞踊リサイタル」の成果

静御前を共通項とする古典と創作の二題を上演。古典の技術に根差した優れた表現力が高く評価された。『静と知盛』では能取物をベースとした素踊り作品のポイントを抑え、それぞれの情景を見事に映出した。自作の『二人静』は日本舞踊とフラメンコを結びつけた意欲作。同名の能の趣向に独創性を加え、清継氏ならではの女性の造型とともに独自の世界を構築した。

〈受賞者コメント〉

令和元年度と同じく、古典舞踊作品の素踊りと昭和初期を描いた新作を評価頂き誠に有難く存じます。関係各位、助演の鍵田真由美師、振付の佐藤浩希師をはじめ御尽力くださいました皆様、当日お出まし下さりお席を埋めて下さいました皆様に心より御礼申し上げます。この後も古典舞踊の鍛錬を怠らず、舞踊に於ける身体や筋肉の使い方を追求し、舞踏でない作品の創作、戦前昭和の美しさ等を日本舞踊で体現して参りたいと存じます。



芸術祭優秀賞 (関西参加公演の部)

一般社団法人 貞松・浜田バレエ団
「海賊」全幕の成果

貞松正一郎の振付でダンサー達の魅力を活かした「海賊」を新制作した。勇壮でリーダーの風格を感じさせる水城卓哉、華やかで細かな心情表現も自然なメドラーの上山榛名を筆頭に、高い技術が目を引くアリ(幸村飯藤)、愛いある魅力のギュリナーラ(名村空)など幅広いタイプの実力派ダンサーがバレエ団内で続々と育っていることを印象づけた。

〈受賞者コメント：芸術監督 貞松 正一郎〉

この度はバレエ団、そしてスタッフの皆様と一緒に総力を上げて取り組んだ新制作「海賊」での芸術祭優秀賞を頂戴し、大変嬉しく光栄です。クラシックバレエ作品での受賞は初めてで、団員一同大きな喜びに包まれております。これからも、お客様の心に響く作品をお届けできるように一つ一つの舞台を大切に、今まで以上に精進して参ります。日頃よりバレエ団に関わってくださる全ての皆様に感謝を申し上げます。



撮影：吉部 泰二(テス大阪)



撮影：岡村昌夫(テス大阪)

舞踊部門

芸術祭優秀賞 (関西参加公演の部)

サイトウマコトの世界
「ロミオとジュリエット」の成果

斉藤綾子演じるロミオの中性的魅力、池田由希子演じるジュリエットの華奢な外見、両者の高い技術らに支えられ純粋な愛が謳われた。サイトウマコトの役に応じた年代とジャンルを超えた卓越したキャストイングと構成・振付、それに応えた出演者達、変幻自在の舞台美術効果によって独自の世界が展開した。象徴的なラストが心に残る。

〈受賞者コメント：ダンサー・振付家 サイトウマコト〉

この度は優秀賞をいただき大変光栄です。受賞作品は「文化庁 AFF 補助対象事業」に採択され大きな助けになりました。手弁当でも良いと出演してくれたダンサー諸氏、最後の2週間はほぼ毎日稽古場に来てくださった舞台スタッフ諸氏、ロミオ役に加え全ての振付アシスタント・制作の斉藤綾子、関係者各位に感謝の意を表します。今後より良い舞台創りに精進してまいります。また提携公演としてサポートして頂いたアイホールが存続の危機に瀕している事に対して、今回の受賞が存続の一助になる事を切に願います。ありがとうございました。



撮影：井上大志



撮影：井上大志

芸術祭新人賞 (関東参加公演の部)

宮川 新大
東京バレエ団「中国の不思議な役人」、「ドリームタイム」における演技

2018年よりプリンシパルとして活躍する東京バレエ団のトリプルビルで2演目出演、傑出した演技で新境地を開く。ベジャールの「中国の不思議な役人」では中国の役人を誘惑する第二の無頼漢一娘で両性具有の妖しい魅力を発散。一方、キリアンの「ドリーム・タイム」では、抽象的な夢の世界を洗練された造形美で描出。技巧を超えた多様な表現力にさらなる飛躍が期待される。

〈受賞者コメント〉

この度は新人賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。今回の受賞は、幼少期から私を導き育ててくださった先生、このコロナ禍にあって年間65回もの舞台経験、数々の役を与えてくださった斎藤友佳理芸術監督、東京バレエ団の事務局、スタッフの皆様、ともに励まし合い頑張ってきたダンサー達、たくさんの方々のお陰である感謝の気持ちでいっぱいです。そして大変な時期にもかかわらず、劇場に足を運んでくださったお客様の温かい拍手には、どれだけ励まされてきたかわかりません。この賞に恥じることなく、これからもひとつひとつの作品にしっかりと向き合い、努力していきたいと思っております。そして観に来てくださった方々の心に少しでも残る舞台を創っていけるよう、これまで同様バレエ団の皆様と力を合わせ、更に精進していきたいと思っております。



(c) Nobuhiko Hikii



photo Shoko Matsuhashi

芸術祭新人賞 (関西参加公演の部)

今井 大輔
法村友井バレエ団公演「ロメオとジュリエット」におけるロメオの演技

容姿に恵まれた大型新人として以前より注目されていた今井大輔が、ロメオという役を得てその資質を開花させた。法村友井バレエ団「ロメオとジュリエット」の土台であるロシア版ならではの高度なリフトも破綻なく、青年の熱情をダイナミックかつロマンティックに演じきり、ジュリエット役、法村珠里とともに見応えあるドラマを構築した。

〈受賞者コメント〉

この度は大変光栄な賞を頂戴し、誠にありがとうございます。法村団長をはじめ、諸先生方にご指導いただき、ロメオという役を賜らせて頂いたことに感謝申し上げます。何よりジュリエット役の法村珠里さんとは、何度も二人で話し合い、お客様に分かりやすくドラマが伝わるよう研究をし、パートナーとして一緒に舞台を創っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。今回リハーサルで得た事全てが私の財産です。コロナ禍にもかかわらずこの舞台に携わってくださった全ての方に感謝し、この賞に恥じぬよう、これからも日々精進して参ります。



大衆芸能部門

芸術祭大賞 (関東参加公演の部)

隅田川 馬石

「奮闘馬石特別編 中村仲蔵通し公演」の成果

芝居好きの小僧が似合う「四段目」。名優の生い立ちを整理して掘り起こした「序」。師匠・五街道雲助を踏襲した本編「中村仲蔵」と、芝居で括った会。調べ上げた序とよく演じられる本編とで、人物の感情が少し通らない点、定九郎の所作には抑えがましいことは課題として、今後の可能性に支持が集まった。

〈受賞者コメント〉

ありがとうございます。本当に驚いております。コロナ禍で寄席が二ヶ月閉まった時に一念発起して覚えた噺で受賞できたこと、また師匠五街道雲助の十八番の噺で受賞できたことが何よりうれしいです。コロナ禍での状況が「中村仲蔵」に通ずるところがあるように思い、不思議な縁を感じます。受賞理由にもありますように、可能性を感じてくださった方々に成長を見ていただけるようにこれからも一層努力いたします。



芸術祭大賞 (関西参加公演の部)

笑福亭 松喬

「笑福亭松喬 還暦独演会」における「らくだ」の話芸

還暦記念の独演会で演じた三席の中でも、特に「らくだ」が秀逸だった。随所に細かい気配りを施して人物の輪郭を浮き彫りにし、鮮明な描写と説得力のある巧みで自在な話芸でくいくいと観客を引き込んだ。大舞台での威風堂々の高座で見せた力量は圧巻。古典の粋に松喬の彩り豊かな枝葉を加えた文句なしの見事な一席だった。

〈受賞者コメント〉

この度、令和3年度(第76回)文化庁芸術祭大賞を受賞いたしました。泉下の師匠に良い報告が出来ます。心より御礼申し上げます。「噺の中にお囃子が入るハメモノ」が上方落語の特長と良く評されます。しかし上方落語の素話にも良いものが沢山あります。今回ハメモノなしで受賞できた事に喜びを感じています。奮らず、これからも芸道精進致します。



芸術祭優秀賞 (関東参加公演の部)

神田 京子

「神田京子独演会」の成果

時代の変化を捉えながら講談で現在の思いを伝えていくのが使命であるという信念のもと、「金子みすゞ〜明るいまほうへ〜」と「大名花屋」という新作と古典を好演し、コロナ禍に生きる我々に、困難に立ち向かって前向きに生きていこうという力強いメッセージを送ってくれた。結婚生活という演者の人生経験が芸の成長に昇華しており、今後の活躍が楽しみです。

〈受賞者コメント〉

息子の幼稚園入園のタイミングで、2年前に新天地山口市に移住し、二拠点生活(東京・山口市)を始めた矢先のコロナ禍突入。当時貯金を切り崩し乍ら育児もするという不安の中、夢中で筆を走らせたご当地取材の新作と、「袖に涙のかかる時人の心の奥を知る」という台詞が印象的な古典で構成した独演会で受賞出来た事は、今後の大いなる励みです。応援して下さいました皆様、「困った事はないですか?」と助けて下さった全ての人々に深謝申し上げます。演者の数だけ講談はある。「みんなが違って、みんないい」。二代目山陽イズムを胸に邁進します!



大衆芸能部門

芸術祭優秀賞 (関西参加公演の部)

桂 吉の丞

「吉の丞進学塾」の成果

勢いのあるマクラからの「仏師屋盗人」は盗人と押し入った先の仏師屋との立場が変化していく様子が丁寧な感情表現で描かれ、「素人浄瑠璃」では旦那を始め魅力的な登場人物と怪けな語り口で会場を大いに沸かした。大師匠である桂米朝の誕生日に因んだ「米朝師匠と私」では愛溢れるエピソードが聴衆の心を打ち、トリの米朝作「一文笛」できっちり締め括り、会全体の流れが緩急のついた構成で見事であった。

〈受賞者コメント〉

まず、私に関わるすべての皆様へ感謝です。この世界に入り20年。師匠吉朝、そして大師匠米朝にほんのわずかですが恩返しができたかと思えます。やっとスタート台に立てた気持ちです。ありがとうございました。



芸術祭新人賞 (関東参加公演の部)

桂 竹千代

「桂竹千代独演会2021冬」の成果

言葉を、高座で生まれたばかりの鮮度で届ける。作功込みを感じさせないしゃべりのスキルが高い。「鮫のし」は現代のくすぐりが多く、営業ネタの側面は拭えない。「古事記〜完全版」は古代史を熟知している竹千代ならではのネタだった。両ネタとも深みを追求することに腐心せず、眼前の客を笑わせたという大衆芸能者の心構えを見せた。

〈受賞者コメント〉

この度は身に余る賞をいただきまして光栄です。落語家入門前の学生時代に得た知識を生かしての古代史落語は5年程前にやり始めました。師匠竹丸より常々、「ナンバーワンよりもオンリーワンの噺家になれ」と言われます。自分にしかできない落語をやり、それをお認め頂いたことがとても嬉しいです。歴史落語は師匠から継承している技です。今後も、自分なりの落語を追求し、お客様に満足して頂ける芸を目指して精進致します。



芸術祭新人賞 (関西参加公演の部)

旭堂 南龍

「第三回旭堂南龍独演会」の成果

華のある高座ゆえ、これまでは華にその芸が圧されることもあった。しかし今回の独演会では、格調高い語りで観客を魅了し、地道な研鑽の成果を見せつけた。男女の「情」を丁寧に表現した「光秀の祝言」、四代目旭堂南陵との思い出とともに披露した「おまろの便り」は親子、師弟の温かな「情」で聴く者の胸を切なく締め付けた。八代目一龍斎貞山にもなった「徳利の別れ」では、今後の活躍の場が関西にとどまらないことを示して見事だった。

〈受賞者コメント〉

この度はありがとうございます。新人賞受賞は本当に嬉しく、より一層自信が深まりました。講談発展の為、更なる向上心で以って、優秀賞、大賞を受賞させて頂ける様に努力精進致します。



テレビ・ドラマ部門

芸術祭大賞

日本放送協会

土曜ドラマ「今ここにある危機とぼくの好感度について」

大学を舞台にした不祥事の隠蔽工作を通して人物たちのあり方を問う野心作である。当初はシニカルな戯画と思わせつつ、最後にはシリアスな社会派的断罪に至る。主人公の設定も物語の展開も類例なくユニークなうえに、一大学的事件に仮託しつつ現在の日本社会の危うい状況までも射撃に入れた内容で、非常に志高き作品となった。



〈受賞者コメント：制作統括（NHK エンタープライズ第4制作センタードラマ部 シニア・プロデューサー） 勝田 夏子〉

この作品が他ならぬ文科省ゆかりの芸術祭で評価頂けたことを大変光栄かつ嬉しく思います。今メディアを含むこの国のあちこちで、言葉の意味や事実の重みといった、社会のよりどころとなるはずの大切なものが音を立てて壊されていることに、様々な人たちが危機感を抱いている表れかも知れません。コロナ下での制作を丸となって乗り切った下だった脚本の渡辺あやさん、音楽の清水靖晃さん、松坂桃李さん始め全キャストの皆さん、柴田岳志チーフ監督以下全スタッフの皆さん、そして取材・考証でご協力頂いた各位に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

芸術祭優秀賞

関西テレビ放送株式会社

大豆田とわと三人の元夫

結婚と離婚を3回繰り返し、会社では社長を任されているとわ子。めまぐるしく変化する彼女の日常と速度を合わせるように会話劇が進行し、とわ子の人生の一コマを一緒に走っているような楽しさがあった。主題歌も印象的。脚本、演技、演出に加え、音楽、衣装などスタッフの力が結集された上質なドラマとして評価された。



〈受賞者コメント：プロデューサー 佐野 亜裕美〉

この度は大変栄誉ある賞に選出いただき、深く感謝申し上げます。坂元裕二さんが紡ぐ素晴らしい脚本を軸に、スタッフ・キャスト一人一人が少しずつ新しい挑戦をし、「見たことがないドラマを作ろう」と取り組んだ昨年春。突然世界を一変させてしまったコロナ禍でどんなドラマを作ればいいのかを、皆で模索しながら制作したドラマでした。頂いた賞を励みに、これからも連続ドラマ制作に真摯に向き合っていきます。本当にありがとうございました。

芸術祭優秀賞

日本放送協会

NHKスペシャル 「ドラマ こもりびと」

父親役の武田鉄矢氏に、社会現象にもなった往年の学園ドラマの先生の40年後を重ねる視聴者は多いだろう。そのフィクションの熱血教師を、ひきこもり、SNS、パワハラ、非正規雇用など数々の40年前にはなかった現在のノンフィクションに立ち合わせる。そこから生まれる戸惑い、翻弄のドラマは現代を生きる者に改めて時代の流れを感じさせる。



〈受賞者コメント：ディレクター 梶原 登城〉

100万人以上が自宅に引き籠る現実、現代で生きるこの意味を問いかけてきます。「こもりびと」では、息子のひきこもりによって生じた「会話の断絶した親子の会話劇」、「生きづらさの可視化」、そして価値観の多様化による「世代間ギャップを認めよう」ドラマ化に挑みました。タイトルも、社会で傷つけられて家に「籠る人(子)」と、その「子を守る人(親)」のダブルミーニングを持ったものとし、すれ違った親子がつかまりを取り戻す物語を目指しました。まずは「対話」こそが、人間本来の孤独からの解放につながることを願ってやみません。

芸術祭優秀賞

日本放送協会

終戦ドラマ「しかたなかったと言うてはいかんのです」拡大版

自身の米軍捕虜の生体解剖の「加害」の罪から目を背けず、真摯に向かい合う主人公の誠実さに胸を打たれる。戦争は、人間を容易に「狂気」に掻き立てる。その意味では、このドラマは今を生きる私たちにも重いテーマを突きつける。「人間の命に対してしかたなかったと、決して言うてはならない」という主人公のセリフは、いつの時代にも通ずるものだ。



〈受賞者コメント：熊野 律時〉

栄誉ある賞をいただき、ありがとうございます。題材とした事件を調べていく中で浮かび上がった「しかたなかった」という言葉。日常の中で、気軽に口にしてしまっているこの言葉の危うさについて深く考えることが物語の核心になりました。考えることを止めてしまえば、恐ろしいことはいつでも起こりうる。このテーマに、キャスト・スタッフ全員が真剣に向き合って作り上げたドラマでした。この賞を励みに、これからも今伝えるべきものをこめた作品を作り続けていきたいと思います。

テレビ・ドキュメンタリー部門

芸術祭大賞

株式会社テレビ岩手

たゆたえども沈まず

東日本大震災から10年。予兆から震災直後の信じがたい光景、そして震災当時の被災者のビデオレターを定点にそれぞれ的人生を丹念に追い、彼らの心の揺れや決意と向き合い、大きな断絶のあった人生の意味を問い示している。対象者への誠実な視点と武骨でざらついた感触の映像構成で、視聴者に生きる意味を問いかける力作である。



©2021 テレビ岩手

〈受賞者コメント：報道制作局報道特別プロデューサー 遠藤 隆〉

東日本大震災と津波の映像記録を後世に伝えることは、私も被災地のテレビ局の責務と考えています。次の災害では少しでも減災につなげることができればという思いで作品を作りました。あの時、そしてその後の10年、全社で取り組んできた活動が、このような栄えある賞として実を結んだことは皆の喜びとするところです。社として、さらに次の10年を見据えて、取材活動を続けてまいります。

芸術祭優秀賞

日本放送協会

NHKスペシャル 「イナサ ～風寄せる大地 16年の記録～」

春になると海からやってくる南東の風「イナサ」とともに生きてきた仙台市の海沿いの集落・荒浜。10年前の大津波に飲み込まれた集落の16年間を追った。記録された映像から紡ぎ出された物語が観る者の心に響く。映像が秀逸である。そして人間が深く描かれている。取材対象者の言葉だけでなく顔や手に刻まれたシワからもメッセージを伝えた。



〈受賞者コメント：伊藤 純、福田 秀則（NHK東日本大震災プロジェクト事務局 専任部長）〉

この作品の主人公だった佐藤吉男さんは、一昨年2月に84歳で亡くなりました。けれどこれからも荒浜を見守り、風になって記憶の中を生き続けていくのだろうと思います。私たちが荒浜の取材を始めて16年、作品を牽引した伊藤雄カメラマンが大切にしていたのが「変わらないもの」を撮ることでした。季節ごと、海や土と働き、子を育て家族を守り、いつか風に戻っていく。震災の前も後も貫き繰り返されてきた生と死の物語です。いま、変わることを求められる時代にあって、守り継がれていくものを見つめたこの作品に、栄誉ある賞をいただきありがとうございました。

芸術祭優秀賞

北海道放送株式会社

ネアンデルタール人は核の夢を見るか ～「核のごみ」と科学と民主主義～

原発の高レベル放射性廃棄物＝「核のごみ」の地層処分調査に名乗り出た北海道寿都町。賛否で二分された構図の裏に、町に落ちる莫大な交付金目当ての思惑や、南島島を最適地とする提案があることなど知られざる事実を抉りだした。事業主体「NUMO」理事長にも取材、国の核政策が一自治体に押し付けられている歪みを浮き彫りした構図が光る。



〈受賞者コメント：ディレクター 澤出 梨江〉

先送りできない核のごみの課題が、動き出しました。処分場選定の調査に手を挙げたのは、財政難と過疎に悩む北海道の小さな町と村。まさかという気持ちとやばりかという気持ちの間で、現場に通い続けました。お互いの顔や親せきまでわかる町民はあの日に賛成派と反対派に分かれ、やるせない思いで、町の未来を考える岐路に立たされています。核のごみと引きかえの交付金は、人々の心にあたかな明かりを灯してはくれません。この課題は地方に押し込められてしまっているのか。原発を抱えたこの国で、電気を使い続ける限り、日本全体で考えるべき課題だと伝え続けていきたいです。

芸術祭優秀賞

日本放送協会

ETV特集「ドキュメント 精神科病院×新型コロナ」

「精神疾患のあるコロナ患者」専用病棟を設置した都立松沢病院。クラスターが発生した複数の精神科病院から患者を受け入れ、高度な医療を行う。一方、転院元のスタッフや患者から、患者を劣悪な環境に置く病院の実態も語られる。番組は逼迫する現場で闘う医師らに密着。コロナ禍を機に、日本の精神科医療の「構造的な闇」を炙り出し、問題の本質を鋭く突きつけた。



〈受賞者コメント：ディレクター 持丸 彰子〉

コロナ禍は、精神疾患のある人たちが直面してきた差別的な医療構造と、弱い立場にある人々を包摂しない日本社会の姿を浮き彫りにしました。番組を通して伝えたかったのは、患者さんの悲痛な叫びも、真剣に向き合おうとしない行政や国の姿勢も、全てことは「精神科のなかで起きている」のではなく、私たちが暮らす社会と地続きであり、誰もが他人事ではいられないという現実です。半世紀以上変わらぬ精神医療の問題について、より多くの方に関心を持っていただくことを願いながら、取材を続けたいと思っています。

ラジオ部門

芸術祭大賞 (ドキュメンタリーの部)

RSK山陽放送株式会社

塙の中のラジオ～贖罪と更生 岡山刑務所から

服役する半数が無期刑の獄中で、週に一度放送される手作りのラジオ番組を核に、粘り強く取材し続けた制作者。音のみの取材ゆえに拾うことができたであろう受刑者たちの心の声を丁寧に紡ぐことで、彼らの眩きの裏側に存在する罪の重さと葛藤や苦悩を聴く者に想像させ、人の生き様について深く考えさせる秀逸な番組を創り上げた。



〈受賞者コメント：ディレクター 米澤 秀敏〉

身に余る光栄です。ラジオの力、音楽の力、言葉の力…番組に込めた思いを余すことなく汲み取り評価いただきましたこと、感謝申し上げます。無期懲役囚が大半の岡山刑務所で40年以上続いているリクエスト番組は、彼らにとって自己承認を得られる貴重な機会であり、「塙の中」を生きる希望でもあります。贖罪と更生の間で葛藤する受刑者の声は「塙の外」の私たちに様々なことを考えさせるものでした。隔絶された世界を知ること許された者として、広く伝えることが私たちの使命です。地方局を取り巻く現状は厳しさを増すばかりですが、今回の受賞を励みに、これからも地域に寄り添う報道を心がけてまいります。

芸術祭優秀賞 (ドラマの部)

日本放送協会

FMシアター「はるかせ、氷をとく」

震災10年目を扱った作品が今年は多かったが、原発事故の影響で自主避難した親子(母(姉)と息子)と福島に残った親子(母(妹)と娘)その4人だけの登場人物で描く物語。4人のモノログが使われ、それぞれの登場人物の心境が伝わり、10年という月日が背負う4人の心情が交錯し、淡々と描かれながらも胸が締めつけられる。登場人物たちの福島弁も温かかった。福島局の思い、出演者、作者の思いを感じた。



〈受賞者コメント：番組プロデューサー 鹿野 恵功〉

大変名誉ある賞を頂き光栄です。番組は、原発事故を境に異なる立場に置かれた2つの家族の、ずっと心にしまっていた思いをめぐる物語です。震災から10年がたち、福島でも「復興」は進んでいますが、その一方で、あの事故が福島の社会に落とされた影は、ひとりひとりの心の奥底で冷えて固まり、外からは見えにくい形でいまも残っているように感じています。私たち現地の放送局の人間は、そうした「そこにいなければ知ることができない」福島を見つめ、より多くの人々に届けたいと考えています。

芸術祭優秀賞 (ドキュメンタリーの部)

信越放送株式会社

SBCラジオスペシャル Lost and Found～家族と故郷を失った父と娘の10年～

東日本大震災と津波で祖父と妻、次女を亡くした大熊町の木村さん一家。東京電力福島第一原発事故による放射能の影響で次女の捜索はかなわなかった。自宅跡には中間貯蔵施設が建設中。遺された父と長女の生きた記録と揺れる心を、本人の証言とW ナレーションで、立体的に描き心に響く。構成力と語りの力を高く評価したい。



〈受賞者コメント：ディレクター 三島 さやか〉

地道に取材を重ねてきた年月の先にこのような戦後途絶えることなく続いてきた重みある賞をいただける日が来るとは思っておりませんでした。震災る思いです。取材に応じ続けてくださった木村紀夫さん・舞雪さんはじめ関わっていただいた皆様に感謝申し上げます。あの震災は、凄まじい揺れが襲った瞬間同じ鳥島に生きていた自分にとって生涯かけて向き合い続けなければならぬテーマです。「サバイバーズギルド」に突き動かされてきました。生かしてもらったひとりとしての使命を噛みしめながら亡くなった方々の鎮魂を祈ります。

芸術祭優秀賞 (ドキュメンタリーの部)

株式会社CBCラジオ

ERのオーケストラ

通常は知れないER内部の模様を、コロナ禍で克明に描くという今日的視点がある。同時に医療界のヒュールキー(専門医と総合医の軋軋)という積年の問題を明確に示した。変化する社会にあって医療体制はどうか。一つの病院を舞台にしながら、医療を巡る市民社会の課題を挑戦的に描いた点を評価。



〈受賞者コメント：ディレクター・構成 森 理恵子〉

24時間365日すべての患者を受け入れるER医療。200時間以上に及ぶ取材音源から見えたのは、絶え間なく求められる「迅速な判断」と「限らない受容」でした。それは、ER医療の根底にある「救急のマインド」という思いやりの精神に支えられており、それを本分とする従事者の皆さんの姿が現れます。また、国内感染者発覚の端緒となったクルーズ船の乗客受け入れ先となったコロナ禍の病院に、どのような災害医療の気概と葛藤があったのか。このたびの受賞で、多くの皆様にお伝えできる機会を得ましたことに、心より感謝申し上げます。

レコード部門

芸術祭大賞

公益財団法人日本伝統文化振興財団

地歌のいろは～九州系地歌と上方地歌の競演～

多彩な演奏形態とそれぞれに適した選曲によって九州系地歌と上方地歌の差異を検証しつつ、両者の魅力を存分に示すことに成功している。演奏会での録音ではなく、スタジオで録音し直すことによって精度が高まり、この意欲的な企画趣旨をより明確にすることで、記録・研究・そして鑑賞においても完成度の高いものとなった。



〈受賞者コメント：理事長 市橋 雄二〉

本作品は地歌専曲家藤本昭子が主催した同名の地歌公演の反響を踏まえて、公演の全曲目を同じ演奏者で改めてスタジオ録音したCDアルバムです。九州系地歌と上方地歌の繊細な表現の違いとそれぞれの味わいを記録に残すことを意図して録音・編集のエンジニアとの共同作業を完成しました。今回の受賞はレコード会社を基金元として日本の伝統音楽・芸能の記録、保存、公開を行なっている弊財団にとりまして大変勇気づけられるものです。本作を広く世界に紹介するとともにこれを励みに今後も伝統を未来につなぐ作品作りに取り組みたいと思います。

芸術祭優秀賞

株式会社フォンテック

ケージ プリペアド・ピアノのためのソナタとインターリュード

グランドピアノを色豊かなる打楽器に変えるプリペアド・ピアノに、北村朋幹が挑んだ。北村はドイツを拠点とする若く繊細な感受性をもつピアニスト。ケージの《ソナタとインターリュード》のために、1956年製のスタインウェイを選んだセンスがすばらしい。抒情的解釈と透明感のある響きが、20世紀とは異なるケージ像を描いた。



(C)TAKA MAYUMI

〈受賞者コメント：ピアニスト 北村 朋幹〉

演奏というのはその場限りの芸術であるため、演奏家にとって録音というのは、作品が形として残る唯一の方法です。そこには音以外にも、その作品と向き合った全ての時間が、まさに「アルバム」のように、詰まっています。ケージの特別な作品と共に過ごし、様々な事に思いを巡らせた日々が、このような由緒ある賞をいただいた事をとても嬉しく思いますし、この録音を成立させるためにご尽力下さった全ての方々に、この場をお借りして、心からの感謝を申し上げます。

芸術祭優秀賞

株式会社マイスター・ミュージック

肖像

2枚のCDのなかに、8名の日本人作曲家が独奏チェロのために書いた代表的な9曲を収める。どれもそれぞれ作曲家の個性や作風の典型を担っているが、それを堤剛が常に求道的に磨き上げてきた演奏様式でみごとに弾ききっている。自然に背筋を伸ばして聴き入ってしまう迫力があり、チェロを通して現代日本の創作史を描く傑作盤。



©鶴島徳典

〈受賞者コメント：代表取締役社長 平井 義也〉

この度は、栄誉ある芸術祭優秀賞を頂戴し大変光栄に思っております。今回の受賞は一旦に演奏家である堤剛氏と土田英介氏の卓越した演奏の賜物であり、アルバムの企画および制作に関わってお力添えを下さった方々のお陰でございます。あらためて、皆様に深く感謝申し上げます。そして、音楽という形のない芸術が、「録音」によってより多くの方々の身近に届けられるよう、この受賞を励みに、さらなる精進を重ねたいと思います。

芸術祭優秀賞

有限会社テイク・ワン (Northern lights Records)

ZEN YAMATO 2nd

虚無僧尺八の善養寺恵介と山田流浄曲の山登松和による15年目の非常に息のあった全5曲を収録する。古典から現代の歌曲、さらに本CDのために構成された器楽曲と多様な作品が収録された。箏と尺八の基本的な演奏に、重ね録音は尺八のみ、箏・三弦のみ、両者ともに、と録音ならではの手法を活かし、二人の濃密で高度な演奏を見事に表現した。



〈受賞者コメント：代表 三塚 彦彦〉

もはや変えようもなく高度に構築されたと思われがちな古典芸能ですが、実は常に革新の連続として今を生きる命を得続けているのだ、ということこそZEN YAMATOの二人から教えられた気がします。弾き歌いを歌、楽器演奏に分解し、しかもその場の駆け引きであるような日本的な間と解釈されるすべての古典芸能の音楽的要素を科学して多重録音で実証して行く。「革新は伝統の中にある」ZEN YAMATOの信念を形にできた喜びだけで充分なところ、このような賞をいただきましたことに喜びを隠しません。